



RSA Security Analytics

S4 Security Analytics Serverア
プライアンス構成ガイド

Trademarks

RSA, the RSA Logo and EMC are either registered trademarks or trademarks of EMC Corporation in the United States and/or other countries. All other trademarks used herein are the property of their respective owners. For a list of EMC trademarks, go to www.emc.com/legal/emc-corporation-trademarks.htm.

License Agreement

This software and the associated documentation are proprietary and confidential to EMC, are furnished under license, and may be used and copied only in accordance with the terms of such license and with the inclusion of the copyright notice below. This software and the documentation, and any copies thereof, may not be provided or otherwise made available to any other person.

No title to or ownership of the software or documentation or any intellectual property rights thereto is hereby transferred. Any unauthorized use or reproduction of this software and the documentation may be subject to civil and/or criminal liability. This software is subject to change without notice and should not be construed as a commitment by EMC.

Third-Party Licenses

This product may include software developed by parties other than RSA. The text of the license agreements applicable to third-party software in this product may be viewed in the [thirdpartylicenses.pdf](#) file.

Note on Encryption Technologies

This product may contain encryption technology. Many countries prohibit or restrict the use, import, or export of encryption technologies, and current use, import, and export regulations should be followed when using, importing or exporting this product.

Distribution

Use, copying, and distribution of any EMC software described in this publication requires an applicable software license. EMC believes the information in this publication is accurate as of its publication date. The information is subject to change without notice.

THE INFORMATION IN THIS PUBLICATION IS PROVIDED "AS IS." EMC CORPORATION MAKES NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES OF ANY KIND WITH RESPECT TO THE INFORMATION IN THIS PUBLICATION, AND SPECIFICALLY DISCLAIMS IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

S4 Security Analytics Serverアプライアンス構成ガイド

| | |
|--|----|
| • S4 Security Analytics Serverアプライアンス構成ガイド | 4 |
| ◦ Security Analytics Serverアプライアンス ハードウェアの説明 | 5 |
| ◦ アプライアンスのマウントとネットワーク パラメータの構成 | 9 |
| ◦ Security AnalyticsでのSA Serverアプライアンス構成の完了 | 17 |



S4 Security Analytics Server アプライアンス構成ガイド

概要

このドキュメントでは、RSA Security Analytics Server アプライアンスをインストールし、ネットワークに接続するための手順を説明します。

本書について

このドキュメントは、ハードウェアの構成手順を説明する目的で記載されています。Security Analytics ソフトウェアの特定のリリースに依存するものではありません。ハードウェアの構成を完了した後、sadoocs.emc.com/ja-jp の Security Analytics オンライン ドキュメントの説明に従って、Security Analytics Server アプライアンスの構成を完了してください。



Security Analytics Serverアプライアンスハードウェアの説明

概要

このトピックではRSA Series 4 Security Analytics Serverアプライアンスについて紹介し、操作手順やコネクタについて概要を説明します。

はじめに

RSA Series 4 Security Analytics Serverアプライアンスには、出荷時にSecurity Analytics Serverソフトウェアがインストールされています。Security Analytics Serverソフトウェアには、Security Analytics、Reporting Engine、Incident Management、Broker、Malware Analysis Colocatedが含まれます。ネットワーク上でSecurity Analytics Serverアプライアンスの初期構成を行うには、次のステップを実行します。

1. 設置場所の要件および安全性に関する情報を確認します。
2. Security Analytics Serverアプライアンスハードウェアをマウントします。
3. Security Analytics Serverアプライアンスをネットワークに接続して、Security Analytics Serverアプライアンスのネットワークパラメータを構成します。
4. Security AnalyticsでのSecurity Analytics Serverアプライアンスの構成を完了します。

ソフトウェアパラメータの構成を開始する際に、Security Analytics Serverアプライアンスに物理的に接続する手段については、いくつかのオプションがあります。接続後にシステム構成を変更するには、Security Analyticsアプライアンスコンソールを使用します。各ステップの詳細は、このドキュメントに記載されています。

パッケージの内容

Security Analytics Serverアプライアンスのインストールと構成に必要なすべてのアイテムが揃っているかどうか梱包の内容を確認します。

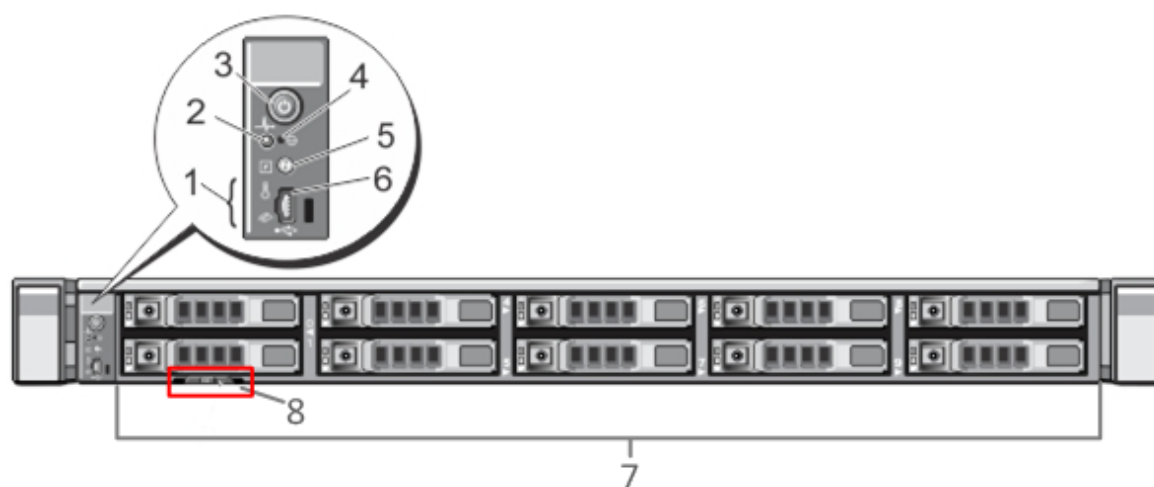
- Series 4 Security Analytics Serverアプライアンス
- スライド式レール (2)
- 電源コード (2)

お客様側で用意が必要な機材

この構成手順を完了するには、以下の機材をご用意いただく必要があります。

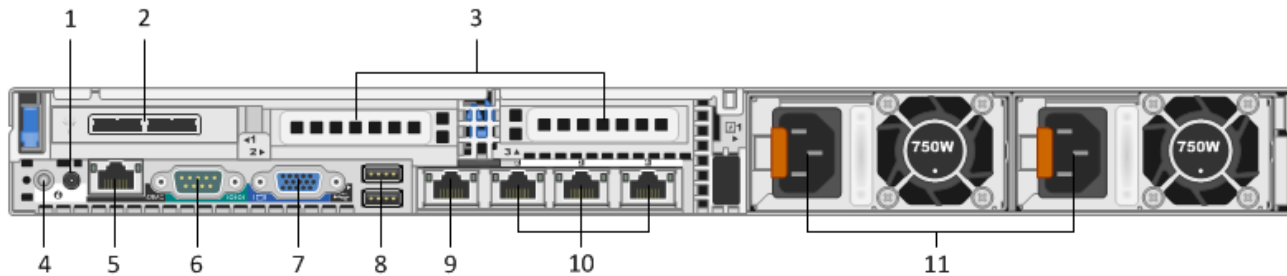
- Ethernetネットワーク ケーブル1本
- モニタまたはKVMアダプタをVGAポートに接続するケーブル、およびキーボードまたはKVMアダプタをUSBポートに接続するケーブル
- コンピュータ ハードウェアの導入および取り付けのための標準的なツール

Security Analytics Serverアプライアンスの前面



| 番号 | 説明 |
|----|---|
| 1 | 診断LED |
| 2 | システム識別ライト |
| 3 | 電源オン/オフ |
| 4 | 埋め込み型NMIボタン |
| 5 | システム識別ボタン |
| 6 | マイクロUSBポート |
| 7 | 2.5インチ ハードディスク ドライブ ベイ10個。Security Analytics Serverアプライアンスには、2台の146GB ドライブおよび2台の1TBドライブがインストールされています。また、内蔵SD (Secure Digital) カード モジュールには、2枚の32 GBカードがインストールされています。ここには、デフォルトでオペレーティング システムがインストールされています。 |
| 8 | サービスタグの詳細 |

Security Analytics Serverアプライアンスの背面



| 番号 | 説明 |
|----|---|
| 1 | システム識別ライト |
| 2 | ディスクストレージアレイ接続用のDACインタフェースポートを2個備えたSASコントローラ |
| 3 | オプションカード用拡張スロット |
| 4 | システム識別ボタン |
| 5 | iDRACポート |
| 6 | RS232シリアルポート (DB9またはシリアルサーバを経由するラップトップへのシリアル接続) |
| 7 | VGAビデオポート (モニタ) |
| 8 | USBポート (キーボード) |
| 9 | ギガビットEthernetポート1 : em1 = 管理ポート。 |
| 10 | ギガビットEthernetポート (2~4) : em 2~4 |
| 11 | ホットスワップ対応電源1および2 |

Security Analytics Serverアプライアンスの仕様

| | |
|----------|--|
| フォームファクタ | 1U、全奥行 |
| 重量 | 43.56ポンド |
| 寸法 (概算) | ベゼルあり : 434.0mm (w) x 787.1mm (d) x 42.8mm (h) ベゼルなし : 434.0mm (w) x 752.1mm (d) x 42.8mm (h) |

| | |
|-------|--|
| 電源装置 | ホットスワップ対応、冗長化750W、 100V~240V オートセンシング |
| プロセッサ | デュアルヘキサコア2.66 GHz |
| RAM | 96 GB |



アプライアンスのマウントとネットワークパラメータの構成

概要

このトピックでは、Security Analytics S4アプライアンスをネットワークに接続し、アプライアンスの初期管理パラメータを構成するための手順について説明します。

はじめに

ネットワークの構成を開始する前に、設置場所の要件に従ってアプライアンスを安全にマウントします。

RSA Security Analytics S4アプライアンスのネットワークパラメータの構成では、デフォルトのIPアドレス、ネットワーククロックソース、ホスト名、DNSサーバを設定します。これらのパラメータを設定するには、キーボードとマウスを使用するか、またはEthernet接続によって、アプライアンスコンソールに接続します。いずれの場合でも、rootとしてアプライアンスにログオンします。アプライアンスにログオンできたら、NwConsoleプログラムを使用して、アプライアンスの管理設定を変更します。DNSサーバの構成では、OSのコマンドラインを使用します。

| 方法 | ユーザー名 | デフォルトのパスワード |
|---------|-------|-------------|
| ssh/cli | root | netwitness |
| アプライアンス | admin | netwitness |

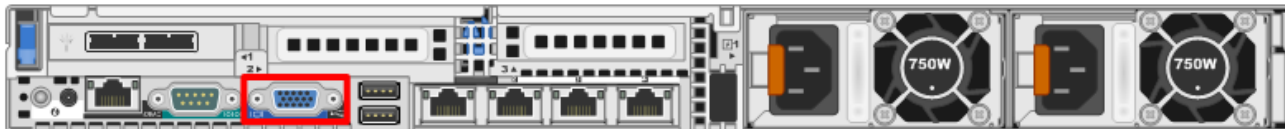
初期接続は、次のいずれかの方法で行います。

- VGA接続によるアプライアンスコンソール：キーボード（USBポート）とモニタ（VGAポート）を使用してアクセスします。
- ネットワーク接続によるアプライアンスコンソール：SSHクライアントが動作するコンピュータから、Ethernetケーブルでアプライアンスの管理ポート（em1）に接続してアクセスします。このポートはデフォルトで192.168.1.1に設定されています。

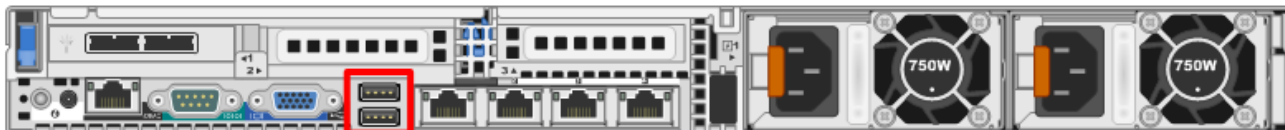
VGA接続によるアプライアンスコンソール

VGA接続でアプライアンスコンソールを使用するには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスの背面にあるVGAポートにモニターまたはKVMアダプタを接続します。



2. アプライアンスの背面にあるいずれかのUSBポートにキーボードまたはKVMアダプタを接続します。



3. アプライアンスの背面にある2基の電源装置に電源コードを接続します。電源コードを電源に接続します。より堅牢な構成にするには、各電源装置を別の回路に接続します。

⚠ Caution: システムを電源に接続しているときは、常時5Vの予備電源がアクティブになっています。システムへの電源を切断するには、両方のAC電源ケーブルを電源から抜く必要があります。

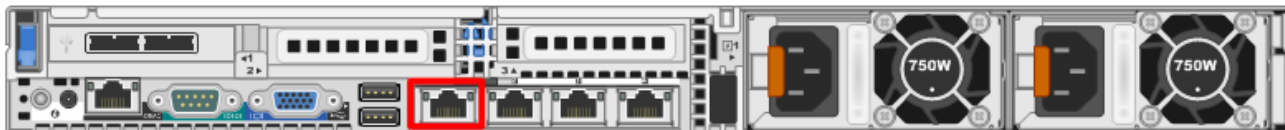
4. ログインプロンプトで、デフォルトの認証情報 (`root/netwitness`) を使用してオペレーティングシステムにアクセスします。
5. 使用しているSecurity Analyticsソフトウェアのバージョンに応じて、「ネットワークパラメータの構成 (10.3.x以前のアプライアンス)」または「ネットワークパラメータの構成 (10.4.x以降のアプライアンス)」セクションに進みます。

ネットワーク接続によるアプライアンス コンソール

⚠ Caution: アプライアンスのデフォルトのIPアドレスは、出荷時に192.168.1.1に設定されています。192.168.1.1は、非常に一般的に使用されるIPアドレスであるため、SSHクライアントのSSH `known_hosts` ファイルにこのIPアドレスのエントリが既に登録されている可能性があります。その場合は、ファイルからこのIPアドレスに関する行を削除する必要がある場合があります。

ネットワーク接続でアプライアンス コンソールを使用するには、次の手順を実行します。

1. コンピュータと、アプライアンスの背面にあるEthernet管理ポート (em1) をEthernetケーブルで接続します。



2. アプライアンスの電源コネクタと電源コンセントに電源コードを接続します。
3. アプライアンスのデフォルトのIPアドレスは、出荷時に192.168.1.1に設定されます。したがって、クライアントシステムには同じサブネット内のIPアドレスを設定します。たとえば、ラップトップのIPアドレスを192.168.1.15、デフォルトゲートウェイを192.168.1.1に設定し、SSH (Secure Shell) クライアントからアプライアンスに接続します。

Note: SSHでの接続中にネットワークパラメータを変更すると、SSHセッションが切断されます。その場合には、新しいアドレスでアプライアンスに再接続します。

4. SSHキーを受け入れます。
5. ログインプロンプトで、rootとしてログオンし、オペレーティングシステムにアクセスします。Security AnalyticsサーバのIPアドレスの入力を求めるプロンプトが表示されたら、**CTRL+C**キーを押して、プロンプトを終了します。
6. 使用しているSecurity Analyticsソフトウェアのバージョンに応じて、「ネットワークパラメータの構成 (10.3.x以前のアプライアンス)」または「ネットワークパラメータの構成 (10.4.x以降のアプライアンス)」セクションに進みます。

ネットワークパラメータの構成 (10.3.x以前のアプライアンス)

10.3.x以前のアプライアンスについては、このセクションの手順に従って、ネットワークパラメータを構成します。

IPアドレスの設定 (10.3.x以前)

次のいずれかの手順に従って、アプライアンスの管理IPアドレスを設定します。

固定IPの設定 (10.3.x以前)

固定IPアドレスを設定するには、次の手順を実行します:

1. rootプロンプト: `[root@NwAppliance~]#`
で、次のコマンドを実行します。
NwConsole
NwConsoleが開始し、次のメッセージが表示されます。
RSA Security Analytics Console 10.2
Copyright 2001-2012, RSA Security Inc. All rights reserved.
2. NwConsoleで、次のコマンドを実行します。
`login localhost:50006 <adminusername> <password>`
例: `login localhost:50006 admin netwitness`
アプライアンスにログオンすると、次のメッセージが表示されます。
Successfully logged in as session <session #>
3. localhostプロンプト: `[localhost:50006] />`
で、次のコマンドを実行します。
`appliance setNet mode=static address=<desired IP address> netmask=<desired netmask>
gateway=<desired network gateway>`
例: アプライアンスのem1インタフェースのIPアドレスをクラスCネットワークで10.1.2.35に設定し、ゲートウェイを10.1.2.1に設定するには、次のコマンドを実行します。
`appliance setNet mode=static address=10.1.2.35 netmask=255.255.255.0 gateway=10.1.2.1`
アプライアンスでネットワークサービスが自動的に再開し、新しい設定が適用されます。
4. アプライアンスにネットワーク経由で接続している場合、構成手順を続行するには新しいIPアドレスを使用してアプライアンスに再接続する必要があります。新しいサブネットにアプライアンスを移動した場合は、クライアントネットワークの変更も必要になることがあります。
5. NwConsoleからログアウトして終了するには、「**exit**」と入力します。

動的IPの設定 (10.3.x以前)

動的IPアドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. rootプロンプト : `[root@NwAppliance~]#`
で、次のコマンドを実行します。
`NwConsole`
NwConsoleが開始し、次のメッセージが表示されます。
`RSA Security Analytics Console 10.2`
`Copyright 2001-2012, RSA Security Inc. All rights reserved.`
2. NwConsoleで、次のコマンドを実行します。
`login localhost:50006 <username> <password>`
アプライアンスにログオンすると、次のメッセージが表示されます。
`Successfully logged in as session <session #>`
3. localhostプロンプト : `[localhost:50006] />`
で、次のコマンドを実行します。
`appliance setNet mode=dhcp`
4. アプライアンスでネットワーク サービスが自動的に再開し、新しい設定が適用されます。アプライアンスにネットワーク経路で接続している場合、構成手順を続行するには新しいIPアドレスを使用してアプライアンスに再接続する必要があります。新しいサブネットにアプライアンスを移動した場合は、クライアント ネットワークの変更も必要になることがあります。

⚠ Caution: DHCPを選択した場合、新しいアドレスを確認できません。新しいアドレスを確認するには、アプライアンス コンソールに直接ログインして確認する必要があります。

ホスト名の設定 (10.3.x以前)

システムのホスト名の設定は比較的簡単なタスクですが、一般的に発生しやすい問題を回避するよう考慮することが推奨されます。ホスト名の選択についてガイダンスが必要な場合は、RFC 1178を参照してください。Security Analyticsでは、アプライアンス上のデータベースはホスト名に関連づけられます。収集または集計を開始すると、ホスト名に関連づけられたデータベースが作成されます。その後、ホスト名が変更されると、別のデータベースが作成されます (この動作を避けるため、収集または集計の開始がデフォルトでオンになっていません)。ホスト名は、通信上の問題を避けるために、(#、_、@、-などの特殊文字ではなく) 英数字のみで構成するようにしてください。

1. まだNwConsoleにログインしている場合は、ステップ2および3はスキップします。
2. rootプロンプト : `[root@NwAppliance~]#`
で、次のコマンドを実行します。
`NwConsole`
NwConsoleが開始し、次のメッセージが表示されます。
`RSA Security Analytics Console 10.2`
`Copyright 2001-2012, RSA Security Inc. All rights reserved.`
3. NwConsoleで、次のコマンドを実行します。
`login localhost:50006 <username> <password>`
アプライアンスにログオンすると、次のメッセージが表示されます。
`Successfully logged in as session <session #>`
4. localhostプロンプト : `[localhost:50006] />`
で、次のコマンドを実行します。

```
appliance hostname name=<desired_name_for_appliance>
```

```
例 : appliance hostname name=myserver
```

5. `Success`の出力を確認したら、「`exit`」と入力し、NwConsoleプログラムをログアウトして終了します。
6. 次のコマンドを使用してサーバを再起動します：`reboot`

Note: ホスト名を変更した後、システムを再起動することを推奨します。

ネットワーク クロック ソースの指定 (10.3.x以前)

Note: この時点でNTPサーバが構成されていないか、接続できない場合、ネットワーク クロック ソースの構成は失敗しますが、後でSAインタフェースから構成することができます。

Security Analyticsのすべてのシステムでネットワーク クロック ソースを使用して時刻を同期し、すべてのサービスとアプライアンスで正確に同じ時刻を示すように設定することを推奨します。これを行わない場合、アプライアンスの時刻が同期されず、特定の時間に対するクエリーで期待される結果が返されないことがあります。

Note: この手順のコマンドでは、大文字と小文字が区別されます。

ネットワーク クロック ソースを設定するには、次の手順を実行します。

1. まだNwConsoleにログインしている場合は、ステップ2および3はスキップします。
2. rootプロンプト：`[root@NwAppliance~]#`
で、次のコマンドを実行します。
NwConsole
NwConsoleが開始し、次のメッセージが表示されます。
`RSA Security Analytics Console 10.2`
`Copyright 2001-2012, RSA Security Inc. All rights reserved.`
3. NwConsoleで、次のコマンドを実行します。
`login localhost:50006 <username> <password>`
アプライアンスにログオンすると、次のメッセージが表示されます。
`Successfully logged in as session <session #>`
4. localhostプロンプト：`[localhost:50006] />`
で、次のコマンドを実行します。
`appliance setNTP source=<NTP_server_hostname or IP_address>`
例：`appliance setNTP source=0.pool.ntp.org`
また、クロックソースとしてアプライアンスのクロックを使用する場合は、次のように実行します：`appliance setNTP source=local`
5. コマンドからの`Success`の出力を確認したら、「`exit`」と入力し、NwConsoleプログラムをログアウトして終了します。

Note: NTPクロックソースとして`local`を指定した場合、アプライアンスのクロックが使用されます。アプライアンスの時刻は、Security Analyticsオンラインヘルプの [Set Host Built-In Clock(ホスト内蔵クロックの設定)] に記載されている手順で構成することができます。

DNSサーバの構成 (10.3.x以前)

DNSサーバのアドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. rootプロンプト: `[root@NwAppliance~]#`
で、次のコマンドを実行します。
`vi /etc/resolv.conf`
2. 以下のように、ファイルに各DNSサーバの行を追加します。
`nameserver <DNS_server_ip_address>`
`search <domain_name>`
ここで、`<DNS_server_ip_address>`はDNSサーバのIPアドレスで、
`<domain_name>`はドメイン名です。
次に例を示します。
`nameserver 192.168.0.1`
`search acmecorp.com`
3. 変更内容を保存して、viエディタを終了します。

ネットワーク パラメータの構成 (10.4.x以降のアプライアンス)

初めてシステムを起動し、ログインすると、`netconfig.sh`を実行して、固定または動的なネットワーク構成を行うためのプロンプトが表示されます。プロンプトが表示されない場合は、コマンドラインから`#netconfig.sh`を実行すると、構成オプションの入力プロンプトが表示されます。初期構成の入力が完了すると、保存する内容を確認するため次の図のようなプロンプトが表示されます。

```

you entered the following network parameters
IP Address: 192.168.1.20
Netmask: 255.255.255.0
Default Gateway: 192.168.1.1
Primary DNS: 192.168.1.2
Secondary DNS: 192.168.1.3
Local Domain: SampleDomain.com
Host Name: SA-Server
-----
enter y to confirm and save
enter q to quit without saving
enter d for don't save or ask me this
enter 1 to re-enter IP address
enter 2 to re-enter netmask
enter 3 to re-enter default gateway
enter 4 to re-enter primary DNS
enter 5 to re-enter secondary DNS
enter 6 to re-enter local domain
enter 7 to re-enter host name
enter a to re-enter all network data
-----
? █

```

ネットワーク クロック ソースの指定 (10.4.x以降)

この時点でNTPサーバが構成されていないか、接続できない場合、ネットワーク クロック ソースの構成は失敗しますが、後でSecurity Analyticsインターフェースから構成することができます。

⚠ Caution: 各サービスやアプライアンス間で時刻同期を構成しておく必要があります。時刻同期にはNTP時刻ソースを使用することを強く推奨します。時刻設定は、基盤となるサービス間の通信にとってきわめて重要です。また、各アプライアンスの時刻が同期されていないと、データの分析において時間のずれが生じ、正常な結果が得られなくなります。

次の手順のコマンドでは、大文字と小文字が区別されます。

ネットワーク クロック ソースを設定するには、次の手順を実行します。

1. まだNwConsoleにログインしている場合は、ステップ2および3はスキップします。
2. rootプロンプト : `[root@NwAppliance~]#`
で、次のコマンドを実行します。
`NwConsole`
NwConsoleが開始し、次のメッセージが表示されます。
RSA Security Analytics Console 10.2
Copyright 2001-2012, RSA Security Inc. All rights reserved.

- NwConsoleで、次のコマンドを実行します。
`login localhost:50006 <username> <password>`
 アプライアンスにログオンすると、次のメッセージが表示されます。
`Successfully logged in as session <session #>`
- localhostプロンプト : `[localhost:50006] />`
 で、次のコマンドを実行します。
`appliance setNTP source=<NTP_server_hostname or IP_address>`
 例 : `appliance setNTP source=0.pool.ntp.org`
 また、クロックソースとしてアプライアンスのクロックを使用する場合は、次のように実行します : `appliance setNTP source=local`
- コマンドからのSuccessの出力を確認したら、「exit」と入力し、NwConsoleプログラムをログアウトして終了します。

Note: NTPクロックソースとしてlocalを指定した場合、アプライアンスのクロックが使用されます。アプライアンスの時刻は、Security Analyticsオンラインヘルプの [Set Host Built-In Clock(ホスト内蔵クロックの設定)] に記載されている手順で構成することができます。

DNSサーバの構成 (10.4.x以降)

DNSサーバのアドレスを設定するには、次の手順を実行します。

- rootプロンプト : `[root@NwAppliance~]#`
 で、次のコマンドを実行します。
`vi /etc/resolv.conf`
- 以下のように、ファイルに各DNSサーバの行を追加します。
`nameserver <DNS_server_ip_address>`
`search <domain_name>`
 ここで、`<DNS_server_ip_address>`はDNSサーバのIPアドレスで、`<domain_name>`はドメイン名です。
 次に例を示します。
`nameserver 192.168.0.1`
`search acmecorp.com`
- 変更内容を保存して、viエディタを終了します。



Security AnalyticsでのSA Serverアプライアンス構成の完了

概要

このトピックでは、Security AnalyticsでのSecurity Analytics Serverアプライアンスの構成を完了するための手順について説明します。

はじめに

Security Analytics Serverアプライアンスを構成するための最後のステップは次の手順で実行します。

1. DLC (Download Central) 内にライセンス サーバを作成し、使用する環境用のエンタイトルメント (ライセンス) を取得します。
2. Security Analyticsでライセンスを設定します。
3. Security AnalyticsでSecurity Analytics Serverアプライアンスおよびサービスを構成します。

詳細については、使用しているSecurity Analyticsバージョンの「アプライアンスおよびサービスの構成ガイド」および「ライセンス ガイド」をオンライン ヘルプ (sadoes.emc.com/ja-jp) で参照してください。